

第 54 回ヘリカル CT 研究会参加報告

札幌医科大学附属病院 大橋芳也

皆さんこんにちは。この度北海道 CT 遠友会 ser 会の世話人を務めさせていただくことになりました札幌医科大学附属病院の大橋と申します。

先日 7 月 22 日(土)に第 54 回北海道ヘリカル CT 研究会が札幌医科大学附属病院で開催されましたのでご報告させていただきます。GE ヘルスケアファーマ株式会社様共催の下、前回同様ハイブリッド形式で行われ Web 同時での配信となりました。今回も Web 配信システムを外部委託することなく札幌医大 原田氏が構築した映像音響システムにより多くの方々にご視聴いただきました。

代表世話人である華岡青洲記念病院の山口隆義先生のご挨拶を始めとし一般演題、Master's Eye、Technical Lecture、特別講演と盛り沢山の内容となりました。

一般演題は 5 演題あり、優秀演題には東北大学病院の島田一生先生による演題が選ばれました。CT 検査業務の可視化と検査効率向上への取り組みというタイトルで KPI と呼ばれる指標を用いて受付から検査までの時間を可視化し検査ス

ループットを向上させるという画期的な内容でした。検査効率を向上させるために客観的な指標を用いて業務改善を行うことは我々の働き方改革という観点においてとても重要なことと思ひ興味深く拝聴しました。

Master's Eye では手稲溪仁会病院の板谷春佑先生が肝臓切除術前シミュレーションというタイトルで手術シミュレーションのための適切な撮影技術から 3D 画像処理までを詳細にご説明いただき、肝腫瘍の位置に対応する肝切除術式や切除ラインの設定の仕方をわかりやすく教えていただきました。

Technical Lecture では北海道科学大学の佐藤和宏先生が教科書に載せてほしい画像再構成処理の実際と題して画像再構成の根底となるコンボリューション補正やフィルタ補正逆投影法などを丁寧にわかりやすくご講演いただきました。

ImageJ を使って画像再構成シミュレーションしてみることも再構成の原理を理解する上で重要なことだと感じました。

特別講演として千葉市立海浜病院の高木卓先生が CT 撮影標準化の終わりなき

路 ～改訂はどこにたどり着くのか？～ というタイトルでご講演いただきました。私たちに馴染み深い X 線 CT 検査の標準化 GALACTIC の改訂が現在進行中であり、画質と被ばくの最適化を標準化していく上での難しさや診断ガイドラインとの併用などご苦労が伝わる内容でありました。標準化という語源を紐解き、広く一般的に用いられている方法かつ患者さんに有益な情報をもたらす基準であることが重要と述べられておりました。また、改定を行っていく中でどうしてもエビデンスが不足してくる現状もあるとのことで改めてエビデンスを構築するための現場努力も必要であると感じました。

ハイブリッド開催ということで現地に来られる方は僅かで少し寂しい感じでしたが、Web では 300 人以上の参加となりアフターコロナ時代を反映しているよ

うでした。次回もたくさんのご参加よろしくお願いたします。



札医大・原田氏による映像音響システムの機材



会場設営の様子